

A large, irregular blue brushstroke graphic that serves as a background for the title text.

教育未来創造会議 について

内閣官房
教育未来創造会議担当室

教育未来創造会議について

1. 会議の概要

- 高等教育をはじめとする教育の在り方について、国としての方向性を明確にするとともに、誰もが生涯にわたって学び続け学び直しができるよう、教育と社会との接続の多様化・柔軟化を推進するため、内閣官房に設置（令和3年12月閣議決定）。
- 会議は、内閣総理大臣、内閣官房長官、文部科学大臣（兼）教育再生担当大臣、総務大臣、財務大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、環境大臣、有識者により構成。

2. 有識者

安宅 和人	慶應義塾大学環境情報学部教授、ヤフー株式会社CSO （チーフストラテジーオフィサー）	関山 和秀	Spiber株式会社 取締役兼代表執行役
安孫子 尋美	株式会社ニトリホールディングス取締役兼ニトリ大学学長 兼人材教育部ゼネラルマネジャー	高橋 祥子	株式会社ジーンクエスト代表取締役、 株式会社ユーグレナ執行役員
阿部 守一	長野県知事	中野 信子	脳科学者、東日本国際大学教授、京都芸術大学客員教授
いとうまい子	女優、株式会社ライトスタッフ代表取締役、研究者	東原 敏昭	株式会社日立製作所執行役会長兼CEO
大坪 正人	由紀ホールディングス株式会社代表取締役社長	日比野 英子	京都橘大学学長
加藤 史子	WAmazing代表取締役CEO	日比谷 潤子	学校法人聖心女子学院常務理事
上岡 美保	東京農業大学副学長	益 一哉	東京工業大学学長
清家 篤	日本私立学校振興・共済事業団理事長		

☆有識者構成員15名中8名が女性

※敬称略

3. スケジュール

<令和3年>

12月3日

会議開催の閣議決定

12月27日

第1回会議を開催

<令和4年>

初夏（目途）

提言とりまとめ

主な論点

①未来を支える人材を育む大学等の機能強化

- ・今後の我が国の成長に向けて特に重点を置くべき分野（※）に関する大学、短大、高専、専門学校等の在り方
- （※） デジタル、人工知能、グリーン、観光や農業を通じた地域振興など
- ・デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育の推進
- ・大学法人のガバナンス強化

②新たな時代に対応する学びの支援

- ・大学卒業後の所得に応じた「出世払い」を行う仕組みを含む、教育費等への支援

③学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備

- ・学び直した成果の適切な評価
- ・学ぶ意欲がある人への支援の充実や環境の整備

女性活躍関係の主なご発言 (令和3年12月27日第1回会議)

- ジェンダーギャップ指数について、156国中、日本は120位。この課題を解決しないとこの先の国の発展はない。
- 女性の活躍推進をどう進めるか、貧困層、シニア層どう支えるか。このあたりについて日本は遅れている。こうしたことも念頭にした人材育成が重要。
- 諸外国がSTEAM領域の学生を大きく増やす中、日本は少し減少。STEAM領域を専攻する女性を増やすということが、伸ばしていける領域。女性が理系に弱いということは科学的に証明されていないので、環境要因が大きく、早急な対策が必要。
- 教育の多様化という視点では、理工系では女性の学生・研究者を増やす方策について、国を挙げてより積極的に取り組むべき。

A large, irregular blue shape resembling a thick brushstroke or a splash of paint, centered on a white background. The edges are jagged and textured, with some areas showing more intense blue color, suggesting multiple strokes or layers of paint.

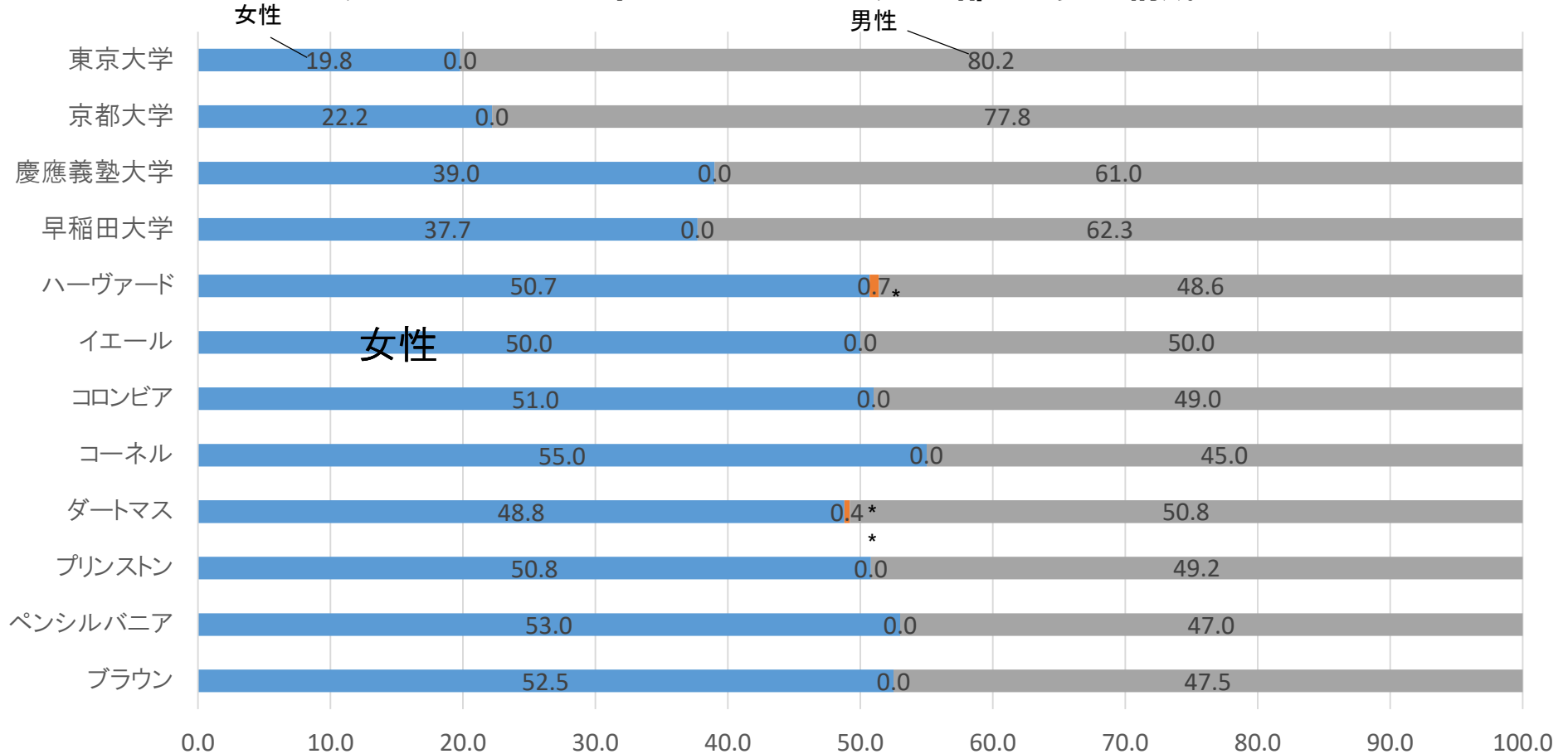
參考資料

アイビーリーグに比して日本の大学学部生に占める女性の割合は低い

令和4年1月24日教育未来創造会議
ワーキング・グループ(第1回)
資料3より抜粋

○アイビーリーグに属する大学では学部生の約半数が女性だが、東京大学、京都大学、慶應義塾大学、早稲田大学では女性比率が4割未満。

アイビーリーグと日本の主要大学における学部生の男女構成比



(備考) *prefer not to say 0.5%, Genderqueer/non-binary 0.2%; ** Genderqueer/non-binary (出所)

アイビーリーグ学部生の男女構成比：

安宅和人『シン・ニホン』(NewsPicks 2020) 図2-14; The Harvard Crimson Meet the class of 2023; Statista Distribution of students in the Ivy League Class of 2023 by gender; Yale News Class of 2023, Columbia undergraduate admissions class of 2023 profile; Cornell Class of 2023: A brief summary; Dartmouth Class Profile and Testing; Princeton Admission Statistics; Penn Statistics for the Admitted Class of 2023 より安宅和人氏作成

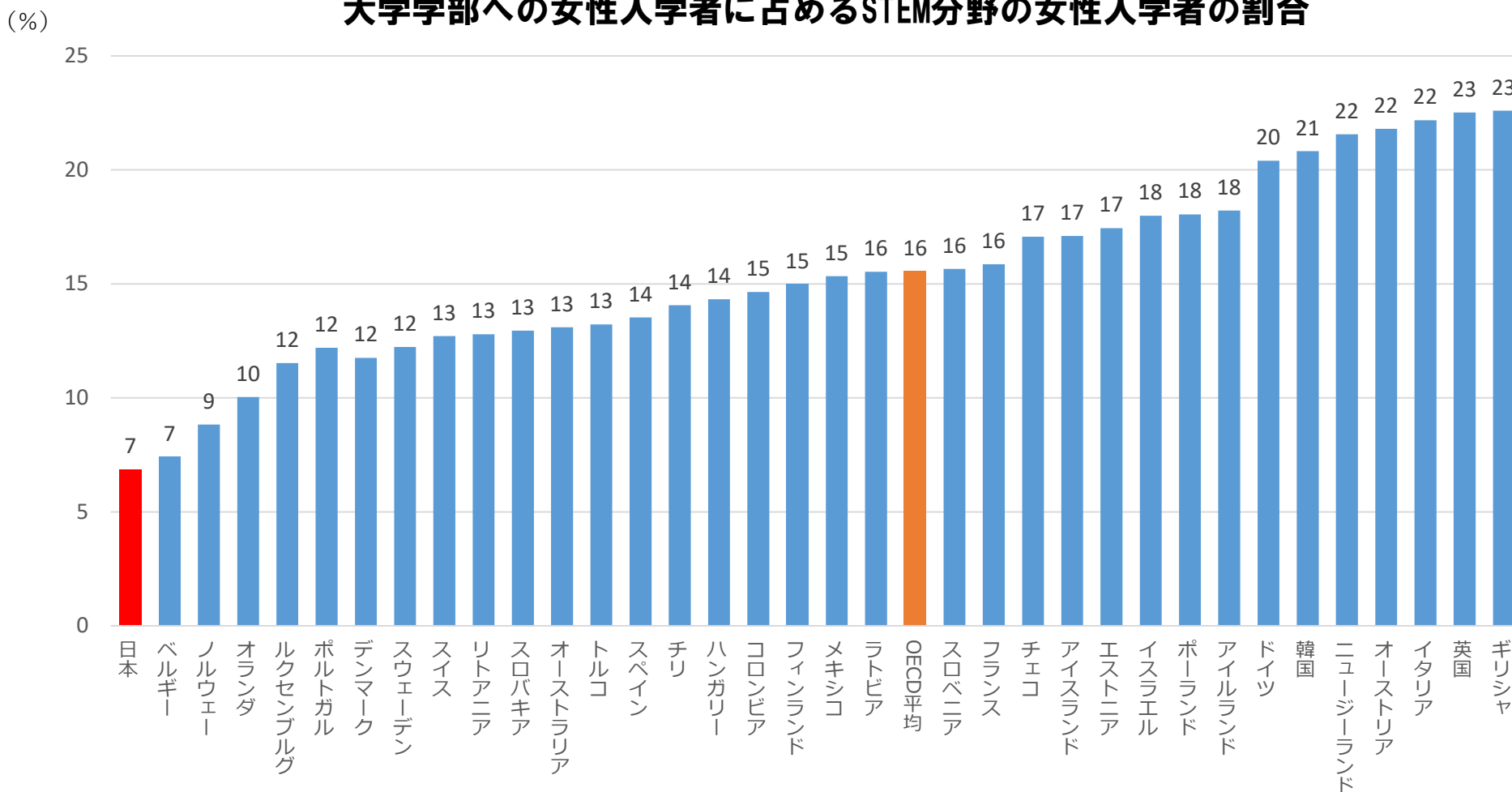
日本の主要大学学部生の男女構成比：各大学HP掲載データより作成 (いずれも2021年度の在籍学生数データ)

女性のSTEM分野への入学者は諸外国の中でも少ない

令和4年1月24日教育未来創造会議
ワーキング・グループ(第1回)
資料3より抜粋

○我が国の大学に入学する女性のうち、STEM分野に入学する女性は7%にとどまっており、諸外国の中で低位であり、OECD平均より大幅に低い。

大学学部への女性入学者に占めるSTEM分野の女性入学者の割合



(備考) “Natural sciences, mathematics and statistics”, “Information and Communication Technologies”, “Engineering, manufacturing and construction”を「STEM」に分類される学部系統としてカウント。データは2019年時点(カナダは2017年、コスタリカは2018年)。

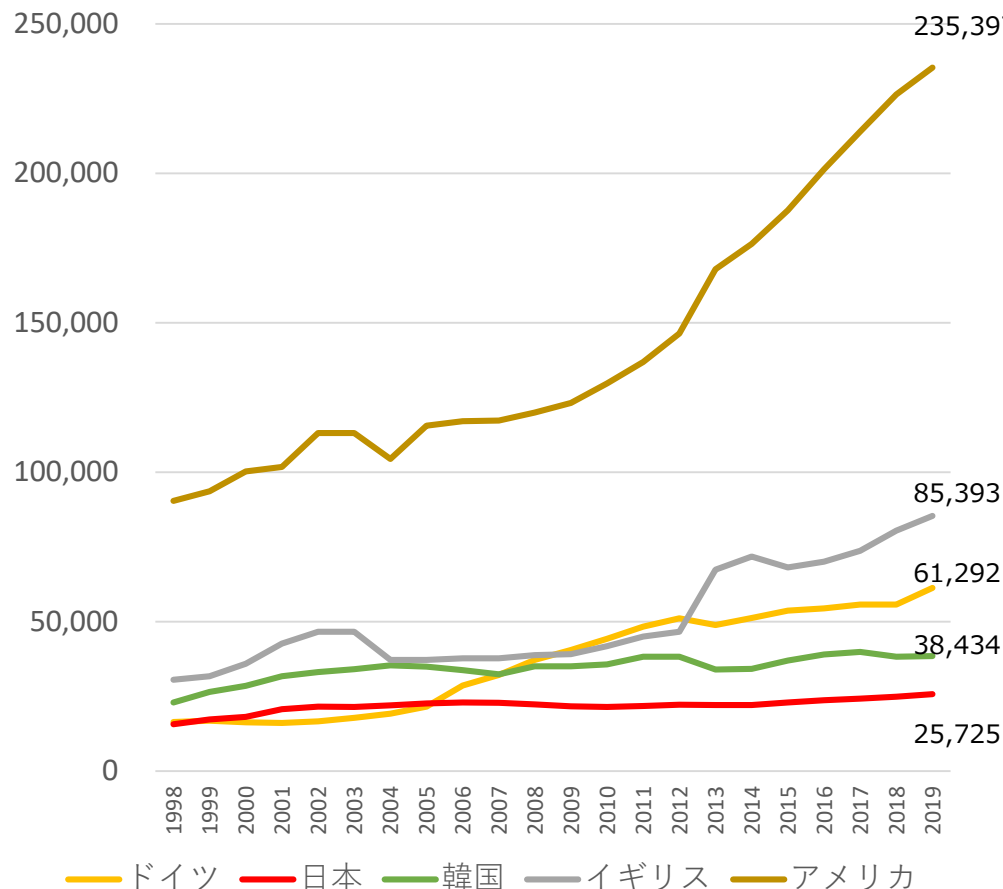
(出所) OECD.statsより作成。

STEM系の女子学生数においても日本は他国に比べて伸ばせていない

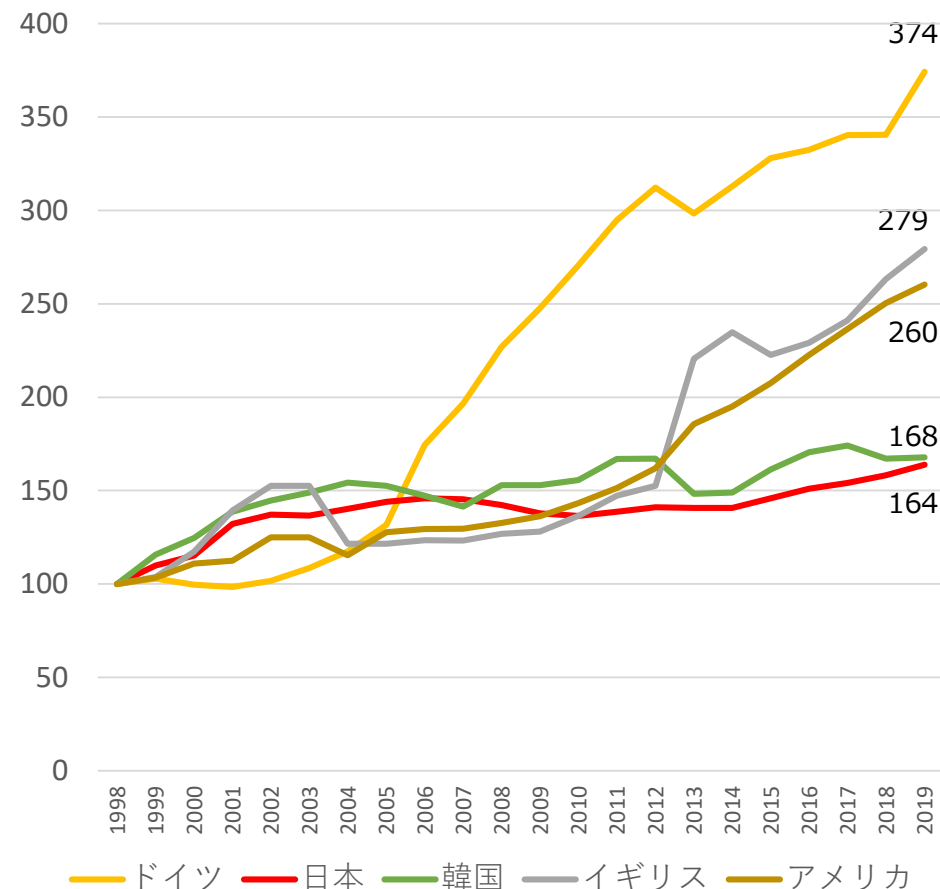
令和4年1月24日教育未来創造会議ワーキング・グループ（第1回）
資料3より抜粋

○ここ20年間で、ドイツ、イギリス、アメリカがSTEM系の女子学生数を約2.5～3.7倍に増やす中、日本は1.6倍にとどまる。

(人) 高等教育段階のSTEM分野女子学生卒業生数の推移



高等教育段階のSTEM分野女子学生卒業生数の推移
(1998年を100とした場合の変化)



(出所) OECD.stats、OECD National Accounts Databaseより作成。

(備考) STEM分野卒業生数については、2012年以降データの取り方に变化があるため、2012年以前は「Tertiary-type A and advanced research programmes」のデータ、2013年以降は「Bachelor's or equivalent level」「Master's or equivalent level」「Doctoral or equivalent level」の教育段階のデータを活用しており、一部欠けているデータについて、翌年のデータを活用している部分がある。

大学で理工農系を専攻する女性は少ない

令和3年12月27日教育未来創造会議(第1回)
資料6より抜粋

○大学で理工農系を専攻する女性の割合は男性より低く、学士課程で2.7万人(学士課程学生全体の約5%)、修士課程で0.7万人(修士課程学生全体の約9.4%)、博士課程で0.1万人(博士課程学生全体の約7.2%)となっている。

